

「地域と学校の新しいカンケイ」～WIN WIN より Happy Happy～

【12月20日放送内容】

DJ：今回は、武庫庄小学校の活動について、武庫庄小学校のコーディネーターの西村さんと、社会教育課の増田さんにお話をお伺いします。お二方、よろしくお願いします。

西村・増田：よろしくお願いします。

DJ：まずは西村さん、武庫庄小学校は、平成29年度に地域と学校の連携を深めるHappy 応援ネットを設置し、令和2年度に尼崎市のモデル校の1校としてコミュニティ・スクールをスタートさせたとお聞きしていますが。

西村：はい。武庫庄小学校では、昔から地域や保護者で学校を支援する活動が盛んでした。具体的な活動として、地域で児童の登下校の見守り、図書ボランティア、武庫一寸豆の栽培、米づくり、餅つき大会 やすいか割り大会、昔遊び、玄関に生け花を飾るなど幅広い支援活動を行ってきました。

DJ：どれも楽しそうで、たくさん活動をされてきたんですね。武庫庄小学校では、地域の特色を活かして、子どもたちの授業を充実させている取組があるともお聞きしているんですが、どのような取り組みをされているんですか。

西村：実は、私は地元で農家をしています。田んぼや畑を利用して、子どもたちに実際の米作りや一寸豆の栽培の体験の場を提供しています。

増田：5年生は授業で米作りについて学習する時間があり、教科書では、米ができるまでの過程を学びます。都会で学校の近くに田んぼや畑のある学校は珍しく、他の学校でも1年を通じて学校の中で米作りをして子どもたちに教えていますが、やはり、実際に田んぼで米作りを体験できるのは、武庫庄小学校ならではのですね。

西村：そうですね。20年以上前になりますが、校長先生からご相談があり、武庫庄小学校の門のすぐ前に私の田んぼがあるので、先生や子どもたちのためになって喜んでもらえるならと引き受けました。

DJ：そうだったんですね。では、武庫庄小学校で行われている米作りの体験について、西村さん詳しく教えてください。

西村：まず、5月に田植えをするため、苗を育ててもらいます。「種もみ」を蒔いて苗を育てて、育てた苗を田んぼに植えていきます。

DJ：苗も自分たちで育てるんですか？

西村：はい。肥料の入った育苗箱のマットの上に種もみを蒔き、そっと土をかぶせ日当たりよい場所に置いておくと、芽が出て青々とした苗に育ちます。そして、6月に子どもたちが、自分たちの育てた苗で田植えの体験をします。収穫の時期には、稲刈りや天日干しをして稲こきをします。

D J：そうなんですね。では、田植え体験の時の子どもたちの様子はいかがでしょうか。

西村：はい。子どもたちは、苗を2、3本ずつ取って深めにしっかり植えることや、水田に入る時の足の運びについて説明をして田んぼの中に入ります。田植えには、JA兵庫の職員や地域のボランティア、武庫地域課、農政課にもご協力いただいて、子どもたちのサポートをお願いしています。

D J：初めて田んぼに入った子どもたちの様子はどうでしたか。

西村：そうですね。まず、水の冷たさに驚いたようです。また、田んぼに入ると泥の中に足が沈んでいく感覚に声をあげ、転ばないように恐る恐る歩いていました。子どもたちが一定の間隔で田んぼに並び、順番に苗を植えていきます。

D J：そうだったんですね。田んぼが学校のすぐ前にあって、自分たちが植えた苗の背丈が伸びて、どんどん大きくなっていく様子を見ることができるっていうのは、子どもたちにとっても増田さん、これは楽しみでもありますよね。

増田：そうなんですよ。昨年度は、武庫庄小学校では秋に凶工展があったのですが、コロナ禍で密を避けるため、子どもたちが作った^{かかし}案山子を西村さんの田んぼに展示して、保護者に見てもらっていましたよね。

西村：あれは先生方のいいアイデアでした。1学期の終わりに、うちの田んぼにかわいらしい案山子が立ちました。5年生がクラスごとに案山子を作り、田んぼに立ててくれました。凶工展には更にたくさん子どもたちが作った案山子が田んぼに並びました。収穫後だったのですが、1年生から6年生までの案山子が田んぼに並び、子どもらしいカラフルな案山子は地域でも話題になりました。この案山子は、今年は近くの農家の方の田んぼでも使いたいという声もあったんですよ。

D J：そうなんですね！子どもたちも自分たちが作った案山子が地域で活躍できて嬉しいでしょうね。そして、10月には子どもたちが収穫の体験もしたそうですね。西村さん、そのときの様子はいかがでしたか。

西村：はい。楽しみにしてくれていたのか、子どもたちはやる気満々の様子でしたね。私がノコギリカマを使って稲の刈り方を説明すると、目を輝かせ真剣に聞いていました。稲を刈るとき少し力が要のですが、子どもたちは自分たちが育てた稲を大切に扱いながら刈り取って、束ねた稲を両手でしっかりと抱えて稲木のところまで運んで天日干しをしました。子どもたちは友達と協力しながら、初めての体験を楽しんでくれていたと思います。

D J：はい。収穫というと、機械で一気に刈り取るのかと思っていましたが、子どもたちが自分の手で収穫をしていくんですね。

西村：そうですね。子どもたちが、カマを使って収穫するときは、お手伝いの大人たちが傍で見守り、安全に気を付けて作業をしています。そして、稲こきをしたお米は、私の家で精米をして学校に届けるんですよ。

増田：そうなんですよ。届けて頂いたお米は、例年、家庭科の授業で行う調理実習で食べているそうです。でも、去年は新型コロナウイルス感染症の影響で調理実習が出来なかったので、子どもたちがお米を分けて持って帰りました。今年は、収穫したお米を家庭科室で保存しています。調理実習ができればいいですね。

DJ：そうですね。自分たちが作ったお米でご飯を食べられるなんて、そういうのはいいですね。では、武庫庄小学校では、5年生の米づくりの他にも農業体験をしているとお聞きしたのですが。

西村：3、4年生が武庫一寸豆の栽培をしています。武庫地域の豊かな土地で作る武庫一寸豆は、昔から地域の特産品で、栄養満点でおいしいと評判です。一寸豆ってソラマメのことなんですよ。11月ごろに、3年生の子どもたちと一緒に畑を耕して種を植えます。次の年の5月頃に収穫時期を迎えるので、4年生に進級した子どもたちに、自分たちの植えた武庫一寸豆の収穫をしてもらいます。

DJ：なるほど。収穫するまでに半年ぐらいはかかるんですね。でも、子どもたちはとても喜びでしょうね。

西村：そうですね。子どもたちは「すごく大きな豆ができてる!」、「たくさん穫ったよ!」と、目を輝かせて収穫を楽しんでいます。収穫した一寸豆でいっぱいになったビニール袋を抱えて子ども同士で見せ合い、大喜びをしている姿をみると、お手伝いをしている私たちも大変嬉しくなりますね。

DJ：そうですね。では西村さん、今後の学校と地域の連携をどのように進めていこうとお考えですか。

西村：はい。武庫庄小学校は、令和2年度にコミュニティ・スクールになり、以前から子どもたちを支えている方々が繋がりました。この地域の方々は、学校のことをとても大切に思っていますので、支援のお願いをすると快く引き受けてくださる方々がたくさんいます。これまでの農業体験に加え、先生方が助かる、子どもたちの学習が充実するといった授業支援にも取り組み、より多くの地域の方に関わってもらえるようにしていきたいと思っています。

DJ：はい。今後も武庫庄小学校と地域の方々が更に繋がりを深めて、子どもたちの学びを支えていけるといいですね。今回は西村さんと増田さんにお話をお伺いしました。お二方、どうもありがとうございました。

西村・増田：ありがとうございました。

DJ：さて、1月は「子どもの居場所づくりの大庄小学校の地域学校協働活動」というテーマで、大庄小学校のコーディネーターの松岡さんと増田さんとの3人でお送りします。それでは、次回の放送もどうぞお楽しみに。